

# 第 39 号

2023 年 2 月 10 日

(令和 5 年 2 月 10 日)

# ソムリエの風

特定非営利活動法人  
奈良まほろばソムリエの会会報紙

発行 特定非営利活動法人  
奈良まほろばソムリエの会  
広報グループ  
〒630-8217  
奈良市橋本町 3-1  
きらっ都・奈良 (BONCHI)

## 久々に「研究発表会」「新春交歓会」を開催！

今年 1 月 29 日 (日)、当会は 2 年ぶりの「研究発表会」と、3 年ぶりの「新春交歓会」を同日開催しました。久しぶりの開催となり、研究発表会には 92 人、新春交歓会には 55 人にご参加いただきました。

(専務理事 鉄田憲男)

### 研究発表の概要は当会 HP に掲載



天皇陵を熱く語る橋本厚さん (1/29)

研究発表会は奈良県庁東側の「奈良公園バスターミナル・レクチャーホール」で開催しました。

当会会員の橋本厚さんが「天皇陵の歩み～陵墓と古墳の二つの顔～」、山崎愛子さんが「古地図で歩く奈良～江戸時代の名所案内図『和州奈良之絵図』を巡る」を語りました。



古地図を手にする山崎愛子さん (同日)

講演の概要は、当会 HP に順次アップされますので、当日参加できなかった方は、そちらをご覧ください。



カジュアルなイタリアンを満喫 (同日)

新春交歓会は、奈良市小西町の「カフェ オアシス」で開催しました。和気あいあいとした雰囲気の中で、食事もお酒も進みました。



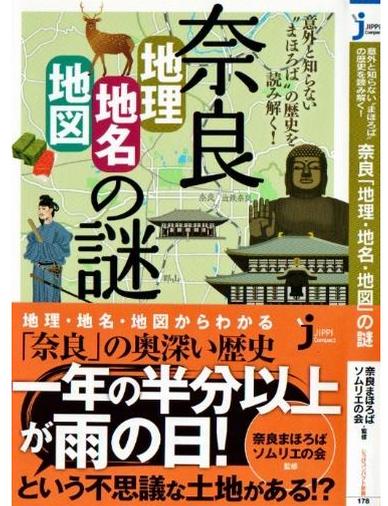
締め挨拶は松浦副理事長 (同日)

### 『奈良「地理・地名・地図」の謎』

当会は 2014 (平成 26) 年 3 月、初の著作 (監修書) として、標記の新書本を実業之日本社から刊行しました。

その後も売れ行きが好調なため、他府県版に先駆けてこの春、新版 (改訂版) を 9 年ぶりに刊行することとなりました。

本書改訂のため、当会では 5 人の会員による「監修チーム」を組織し、お正月返上で改訂作業に取り組みました。



旧版 (じっぴコンパクト新書) 表紙

アップデートが必要な箇所は数知れず、また 81 本の記事のうち 11 本は、まるごと差し替えとなりました。



初回作業部会の様子 (1/26)

### メールアドレス変更時のお願い

最近、メールアドレスを変更されても当会に連絡せず、放置されている方が散見されます。

また所属グループだけに連絡され、当会本体に連絡されない方もいらっしゃいます。

変更された方は、必ず代表アドレス (info@stomo.jp) にご連絡をお願いします。

## ガストロノミーツーリズムを語る



シンポジウム(1/29付毎日新聞より)

ガストロノミーツーリズムとは、食を求めて旅をすること。新しい「旅のカタチ」として、注目されています。

県などの主催で「大立山まつり2023 奈良ちとせ祝ぐ寿ぐまつり」が1/28(土)～29(日)開催され、初日に開かれたガストロノミーツーリズムをテーマとしたシンポジウムには、当会から鉄田が参加。

「奈良はうまいものばかり。食の魅力で世界から観光客を呼び込もう」とアピールしました。

## 友松洋之子さんに知事表彰！

当会会員の友松洋之子さんが、奈良の魅力向上やPRに貢献したとして、「第13回あしたの奈良表彰」の被表彰者に選ばれました、おめでとうございます！

昨年12/17(土)、県コンベンションセンターで開かれた表彰式で、荒井知事から表彰状と記念のメダルが授与されました。

当会とゆかりの深い保山耕一さんも同日、表彰されました。



友松さんのガイド風景(如意輪寺)

## 松森理事がロータリー歌壇で1席！

ロータリークラブの全国版会報誌2月号で、当会理事の松森重博さんの歌が1席に選ばれました(選者は佐佐木幸綱氏)。おめでとうございます！歌は「ご造替の春日若宮の昏き闇神官の声高く響けり」。

## 古地図でプラタモリ気分

当会会員でガイドG所属の安井永さんは昨年12/10(土)、奈良市観光協会のモニターツアー「スマホで再生古地図ウォーク(きたまち編)」にガイドとして参加されました。

当日の様子は、NHK奈良の「ならナビ」(1/20付)で、「古地図でプラタモリ気分」として紹介されました。



転書門をガイドする安井さん(昨年12/10)

## 奈良シニア大学「グルメサークル」

年に9回、県内の特色ある飲食店を訪ね、「食と食文化」を学ぶ課外活動「グルメサークル」は、好評裡に推移しています。1/23(月)には新春特別企画として、登大路ホテルの1万円のランチを堪能しました。



三つ星レストランの味を堪能(1/23)

こちらのレストラン「ル・ボワ」は昨年11月から、札幌の三つ星レストラン「モリエール」が運営されて

います。定員一杯の28人(スタッフ2人を含む)が集まり、お店は貸し切りとなりました。

食事のあとは三条通りの浄教寺を参拝。ご住職の島田春樹さんからお寺のご由緒などをお話いただいた後、ご本尊の鎌倉時代の阿弥陀如来立像(慶派の作とも)を拝観しました。



島田住職のお話に聞き入る(同日)

## 短歌結社の機関誌に万葉本が紹介

当会4冊目の著作となる『奈良万葉の旅百首』(京阪奈情報教育出版刊)が、広く全国に会員を持つ「幻桃短歌会」の機関誌『幻桃』(隔月刊)の昨年9月号に、大きく紹介されました。当会会員の平越真澄さん(同誌購読会員)が担当役員さんに贈られた本書が、会員の吉田誠治さんの手に渡り、吉田さんは興味を覚えて、県下各地の万葉集のゆかり地を巡っておられます(現在も連載中)。

奈良のローカル本が全国区となり、不思議なご縁に驚いています。平越さん、ありがとうございました！



『幻桃』昨年9月号(前半部分)

# 来村多加史先生との対談

奈良まほろば  
ソムリエ検定の  
第1回から携わ  
られている阪南  
大学 国際観光学  
部 教授の来村多  
加史(きたむらた  
かし)先生と対談  
を行いました。そ  
して第1回目の  
対談では「来村先  
生との出会い」、  
「奈良検定」や  
「Nara 観光コン  
シェルジュアワ  
ード」の話、「先生  
から見た奈良の魅力」など、短い時間でお聞きしました。



来村多加史先生との対談

私は来村先生とのご縁をきっかけに、明日香村で行われた「プロガイドの養成研修講座」、旅行会社クラブツーリズム「来村先生ツアーの同行」や、「新規ツアー造成の下見」に東北までご一緒したりと、頻繁にお会いする機会をいただいております。そんな中、YouTube 対談のお話を打診すると、二言返事で「明日でも良いですよ。」という軽いノリでご快諾頂きました。

先生の魅力といえば日本・中国の「考古学」を始め、「歴史学」、現在大学で指導しておられる「観光学」。また時には「軍事評論家」としてなど、多岐に渡る知識に裏付けられたガイドです。難しい話でもわかりやすく伝える事は勿論、真剣な顔をしながら急に飛び出てくる冗談に誰もが意表をつかれ、笑顔へと導かれます。

先生のツアーに参加されているお客様もそのユニークなご案内に聞き入り、多くの方々がファンになって帰宅されます。

後日、お会いする機会がありましたので、その際に対談動画の撮影をする事になりましたが、なんとネクタイを持参して下さっていました。リラックスした雰囲気に対談したかったので着用はお断りし、カメラやマイクなどをセットし、位置を整えたソファに座って頂きました。先生が私に尋ねます。「どんな感じで座りましょう？背筋を伸ばす感じですか？偉そうな感じですか？」

私「深くどっしりお願いします。」ということで撮影開始。兵庫県明石市出身の先生が感じる奈良、奈良検定を始めたコンセプトも語って下さり貴重な対談となりました。内容はお互いに完全アドリブ、台本なしで対談スタート、撮り直しもなく 10分少々でサラッと終了。やはり毎日の大学授業の講義や講演などで慣れていらっしゃると思いますので、いくらでも上手く組み立ててお話しされます。

快く対応下さり、意外と乗り気な先生に感謝です。今後も定期的にお会いする機会がありますので、この対談をシリーズ化するという流れでご承諾下さっています。これから様々な話題で対談を行なう予定ですので、ご興味がございましたら皆様も是非ご覧下さい。

<https://www.youtube.com/watch?v=X0nIoL6PpQo>

(広報 G 松原 純)



## 我が町散歩・鎌倉市 ～かつて忍性の墓といわれた五輪塔～

鎌倉駅西口から今小路を北に10分ほど歩くと、鎌倉五山第三位の寿福寺門前です。この辺りが扇谷（ワキガヤツ）で、源頼朝の父義朝の屋敷があったところです。この先今小路の古道は横須賀線の踏切を渡り、ちょっと行った先の東に延びるのが泉谷への道で、その奥にある多宝寺跡までは寿福寺



浄光明寺五輪塔（覚賢塔）

門前から10分程。その多宝寺跡の裏山に「浄光明寺五輪塔」（覚賢塔）があります。この総高約3mの巨大な五輪塔（国重要文化財）は、その造形から多宝寺の開山塔ではないかといわれてきました。多宝寺は1262（弘長2）年、西大寺末の南都律の寺院として忍性を開山として創建されたところから、この巨大な五輪塔は長らく忍性の墓とされ、極楽寺に加え鎌倉に忍性の墓は2つあると伝えられてきたのです。鎌倉幕府滅亡後、大寺院であった多宝寺は徐々に衰退、17世紀には廃寺になり、裏山にこの五輪塔を残すのみになっています。

ところが、大正12年の関東大震災でこの五輪塔が崩れた際に骨臓器を発見、そこに刻まれた文字で、この五輪塔は1306（嘉元4）年に没した多

宝寺2代長老覚賢の墓であることが確認されました。覚賢は忍性と同じく西大寺で修行したと推定され、忍性が1267（文永4）年に極楽寺に移ると2代多宝寺長老に就任しました。

現在、多宝寺跡から五輪塔へのルートはありません。多宝寺に隣接していた浄光明寺の裏山にある冷泉為相墓を経由して尾根道を行くのですが、かつては自由に行けた道も、現在は残念ながら年1回、4月の鎌倉まつりの時だけ開放されます。

扇谷は西大寺の叡尊が鎌倉に下向した際生活の拠点とした場所でもあり、宗教活動の拠点とした新清涼寺（廃寺）もこのそばにありました。鎌倉と奈良の縁を感じながら静かに散策ができる散歩道です。

（関東サークル 松本薫）

## 我が町散歩・広陵町 ～馬見丘陵公園 かつらぎの道～

「歴史とロマン かぐや姫の里」として近年ハイカー達が訪れている広陵町。特に河合町とエリアをまたがる県営馬見丘陵公園には、近隣他府県から行楽に来られる方も多い。今回の散歩は西域の馬見丘陵に1970年代から造成された真美ヶ丘ニュータウンを経由し、県営馬見丘陵公園に至るウォークルートを辿ってみる。

馬見丘陵と言えば大古墳群で有名で、南の新山古墳から北の巢山古墳に至るまで、大小様々な古墳が点在している。ニュータウンを造成するに当たっては、これらの古墳群をうまく保存しながら、公園化や緑地化をし、街が造成された。又、街を南北に縦貫する緑豊かな遊歩道「かつらぎの道」（2.2Km）が整備され、ゆっくりと散策

できる環境となっている。

この道のスタートは近鉄五位堂駅から。途中少しルートは外れるが、新山古墳、モエサン古墳、安部山古墳群等にも立ち寄れる。新山古墳は前方後方墳で馬見古墳群の中では一番古い年代の古墳である。遊歩道を北進すると造成時の記録を残す「真美ヶ丘メモリアル広場」に着く。造成前と造成中・造成後の歴史が順番に辿っていける構成で作られており、当時の様子がよくわかる。ここを経由してさらに北進すると終点に古代のロマンあふれる史跡「牧野古墳」に到着する。県内3番目の大きさの規模を誇る横穴式石室を持つ。被葬者は舒明天皇の父である押坂彦人大兄皇子と推定されている。ここで葛城の道は終着であるが、

さらに東進すると国の特別史跡の前方後円墳「巢山古墳」に着く。王墓の墓と推定される大規模古墳であるが、築造当時の姿のまま残されている貴重な古墳である。この「かつらぎの道」を辿る散歩は正に古代を感じるロマンの散歩である。

広報グループ 吉川和美



かつらぎの道

# 世界遺産と飛鳥



## (1) 世界遺産とは

世界遺産条約が採択されたのは、1972年11月のことです。それから約半世紀を経た今、日本の世界遺産登録件数は25件になり、26件目として「佐渡金山」の推薦書を国が2023年1月19日に提出しました。次を目指して「飛鳥・藤原」と「彦根城」の二地域が推薦活動を行っています。

さて、一般的に「世界遺産」のことを、世界的な「最上級プレミアム観光地」と認識されていないでしょうか？もちろんそうではありません。とてつもなく大切な価値(=顕著な普遍的価値⇒OUV)を持つ建物、景観などの不動産を世界遺産条約締約国が申請し、ユネスコの世界遺産委員会が一連の手続きで一覧表に登録したものが「世界遺産」なのです。

「ユネスコ」とは世界平和を目的とした国際連合の教育科学文化機関のこと。

「遺産」とは過去から受け継いだ大切なもので、子孫に伝えなければならない大切なもののことです。

過去から受け継いだとてつもなく大切な価値(OUV)のある資産を持つ締約国自身を中心となり完全な保存を維持することが「世界遺産」の目的です。そして、世界の人々がリスペクトし、保全に協力することで世界平和につなげていくことが「世界遺産」の存在意義と言えます。

## (2) 飛鳥・藤原

奈良県には既に3件の世界遺産があります。「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」は奈良県で4件目の世界遺産登録を目指しています。

実は16年も前の2007年1月に暫定リストに掲載されました。同時掲載の「富岡製糸場」や「富士山」「長崎、天草地方の隠れキリシタン…」は既に世界遺産に登録されています。真正性・完全性を満たし、OUVの証明をするための課題が残っていたため「飛鳥・藤原」は登録審査に至っていない状況でしたが、課題を順次克服し、文化庁宛に世界遺産推薦書素案を提出しました。

## (3) 構成資産候補

世界遺産登録を目指す「飛鳥・藤原」には次の20か所の構成資産候補地があります。

### ① 明日香村

[石舞台古墳](#)、[牽牛子塚古墳](#)、[飛鳥宮跡](#)、[飛鳥京跡苑池](#)、[飛鳥水落遺跡](#)、[酒船石遺跡](#)、[飛鳥寺跡](#)、[橘寺境内](#)、



橘寺

[川原寺跡](#)、[檜隈寺跡](#)、[大官大寺跡](#)、[中尾山古墳](#)、[キトラ古墳](#)、[高松塚古墳](#)、[天武天皇・持統天皇陵](#)



高松塚古墳

### ② 桜井市

[山田寺跡](#)

### ③ 橿原市

[菖蒲池古墳](#)、[本薬師寺跡](#)、[藤原宮跡](#)・[藤原京朱雀大路跡](#)、[大和三山](#)([天香具山](#) [畝傍山](#) [耳成山](#))

## (4) 課題

先に「課題を順次克服し…」と記述しましたが、審査員によれば疑問となる「飛鳥・藤原」のOUVや真正性・完全性に関する問題点はいろいろあると思います。

例えば、

○良質の地下遺構はあるが地上の構造物は再建されたものが多く、真正性が担保されていないのではないか。

○石造物の多くはまだ科学的裏付けが乏しい。

○他の内外の世界遺産…時代の近い古墳や都城跡との背景や違いが不明確。

○壁画古墳は東アジアの他の古墳との類似性が顕著。

⇒文化交流を証明できるがオリジナルとしてのOUVの証明が課題…などが挙げられます。

しかし、飛鳥・藤原の良さは激烈な歴史をのどかな田園風景と神秘的な謎で優しく包んでいるところです。このまま世界遺産に登録できれば良いですね。

(広報G 福岡康浩)



牽牛子塚古墳

# 近代歌人の歌で巡る 明日香

明日香には、多くの史跡の傍らに万葉歌碑が建ち、飛鳥時代に生きた万葉人の明日香愛や息遣いを感じ取ることができます。また、明日香は近代歌人にもこよなく愛された地であり、佐佐木信綱、会津八一、斎藤茂吉、土屋文明、など多くの歌人が歌を残しています。本日は、近代歌人の歌で、少し明日香巡りをしてみたいと思います。

## 【豊浦寺跡】

「ちよろずのかみのいむとふおほてらをおしてたてけむこのむらのへに」 会津八一

会津八一の歌は、すべてがひらがなです。漢字のもつ視覚的な伝達効果を排除し、純粹に大和の古典語の韻律で歌おうとしたものです。この歌は、仏教伝来の際の崇仏派の蘇我稲目と排仏派の物部尾輿・中臣鎌子の対立抗争に思いを寄せ詠んでいます。

## 【飛鳥坐神社】

「ほすすきに夕くもひくき明日香のやわがふるさとは灯をともしけり」 釈迢空

歌人であり国文学者の釈迢空(折口信夫)は、祖父が当神社宮司の飛鳥家の出身。本人は大阪育ちながら、明日香には「わがふるさと」と呼ぶほどの愛着を感じていました。

本人揮毫によるこの歌の歌碑は、石段を上ってすぐの右側で鑑賞することができます。

## 【大原の里】

「大原の里を恋しみみたるときわがかうべより汗したたりぬ」 斎藤茂吉

アララギ派の重鎮の斎藤茂吉は医師で、同じく医師で作家の「どくとのマンボー」こと北杜夫の父。そして大変汗かきだったと伝わります。飛鳥坐神社から大原に至る上り坂を歩くと、昭和5年8月の炎天下、額に汗する茂吉の姿が目に見えそうです。

## 【酒船石遺跡】

※「新アララギ」の選者であり、毎日新聞やまと歌壇の選者であった小谷稔は現代歌人ですが、便宜上近代歌人とさせていただきます。

「渠(みぞ)を造り運ばしめしと書紀に記す布留の石ぞこれ黄なる積み石」 小谷稔

毎日新聞「やまと歌壇」の撰者だった小谷稔は、平成12年の発掘調査の現場説明に参加し、この歌を詠みました。目の前の石垣は、天理の石上山で産出する天理砂岩を、当時の人が「狂(たぶれ)心(ごころ)の渠(みぞ)」と呼んだ人工運河を使い船で運んだと見られています。

## 【飛鳥宮跡】

「山のつつむは岡本宮のあとどころ木立は岡寺の藁をかくす」 土屋文明

歌人として文化勲章を受章した土屋文明が、昭和 21 年に、戦後では初めて明日香に来た時の歌です。飛鳥宮跡(岡本宮跡)は、東から多武峰が大きくかぶさっているので「山のつつむ」と表現しています。文明の明日香愛は次の歌に凝縮されています。

「かぎりなく大和を思ふ小さなるこの明日香を限りなく思ふ」

## 【石舞台】

「玄室のうち広(ひろ)らなり説き示す若き学者の声ひびきとほる」 佐佐木信綱

第一回文化勲章受章者で宮中歌会始の撰者でもあった佐佐木信綱は、昭和 8 年～10 年の石舞台発掘調査を担当した関西大学末永雅雄氏の説明を聞いています。末永雅雄氏は、石舞台古墳の他、唐古・鍵遺跡、宮滝遺跡、高松塚古墳等、数多くの発掘調査を手掛け、昭和 63 年に考古学者として初の文化勲章を受章しました。

「飛鳥をいゆきめぐりていずこにても二上山の見ゆる親しさ」 落合京太郎

落合京太郎は土屋文明の弟子で、裁判官を歴任した後司法研修所長を務めました。二上山は、雄岳と雌岳が並ぶ美しい山容で親しまれていますが、万葉集に天津皇子の姉大伯皇女の絶唱があることが、二上山への特別な思いにつながっています。

「うつそみの人なる我や明日よりは二上山を弟(いろせ)とあが見む」 大伯皇女

明日香を歩くと、あちらこちらで二上山が姿を現しますが、石舞台を見下ろす高台にある石舞台展望台からの二上山の景色は特に素晴らしいものです。

以上、近代歌人の歌で明日香巡りをしてきましたが、明日香には、1300 年以上前に生きた万葉人の歌が歌碑として数多く建立されています。ここには、はるか時代を越えて共鳴し合う歌と歌があり、まさに「明日香は日本人の心の故郷」だと思います。

ガイド G、広報 G 藤田道夫



石舞台展望台から見る二上山

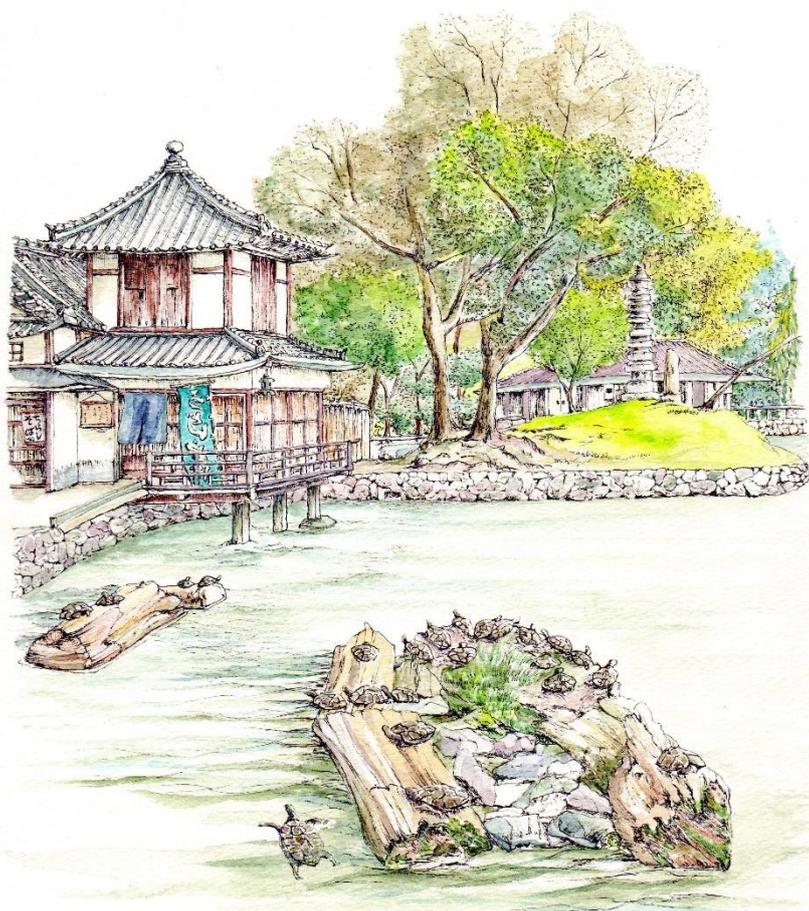
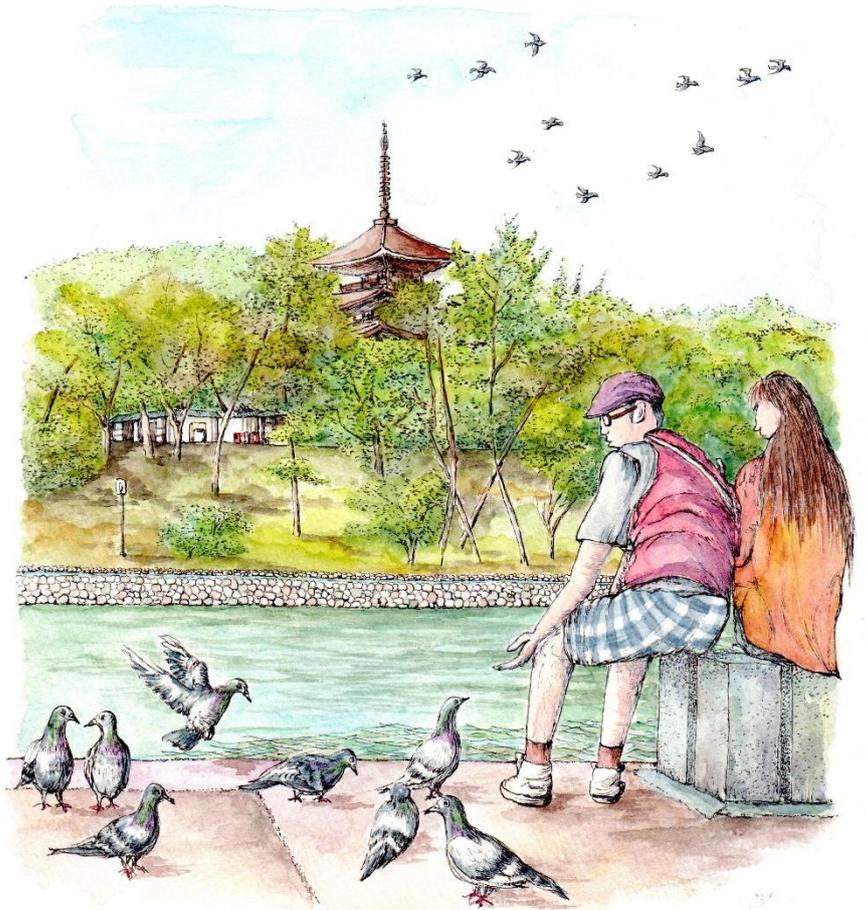
# シリーズ「奈良スケッチ紀行」～水彩画で巡る名所・旧跡～

## 第7弾 猿沢池

令和5年初回は、猿沢池のスケッチをご紹介します。

1 作品目は定番の写真スポットでもありますので、絶好のお絵かきポイントです。現在はちょうどこの角度を見渡すカフェが営業しておりますので、お茶をしながらの風情を楽しむこともできます。

2 作品目はほとりて100年以上の歴史を持つ「衣掛茶屋」と水面にたむろする亀を描いています。こちらの茶屋の窓際の席からは、そのまま額縁に入ったかのような景色が望めます。



猿沢池はもとより池に流れ込む水量が少なく、近年は水質の悪化が問題となっていたために、奈良県は2022年9月より井戸水を流し込んで池の水を入れ替えるという実証実験を始めました。同年12月には水の濁りが改善するなど効果が認められたために、今後この作業は継続することが決定しています。実際に私も底が見えるほどの水面を確認しています。

東大寺の鏡池もTV番組で水を入れ替えてきれいになったことが話題になりました。水のある景色の中でのその透明感は非常に大切です。さらに美しくなる猿沢池の眺望が楽しみです。

「奈良とびっきり観光ガイド」

<https://www.youtube.com/c/nara-guide>

「MUMEIART.COM」

<https://www.mumeiart.com/>

(広報 G 佳山隆生)

# ホームページのこと 続

ホームページに WordPress という仕組みを取り入れました。今までは専用のアプリが必要でしたが、インターネットにつながる環境があれば、スマホからでも更新ができます。

スマホやタブレットでご覧になるかたも多いのでできるだけシンプルな見栄えにしています。でも、ソムリエの風を「パラパラめくる」細工もしています。

充実したページになるように情報をお寄せいただくと同時に「こうだったらいいのに」などご意見、提案をいただきたいと思えます。

**おすすめ《タスクマネージャー》**  
パソコン画面が、突然「ウイルスに感染しました」となることがあります。おまけに警告音が聞こえてびっくりします。

迷惑な詐欺のページであることはわかります。でも閉じるボタンで閉じられなかったり、…。

そんなときの解決方法を2つ。

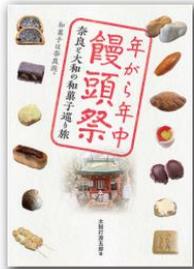
### 強制終了

…電源ボタンを画面がパシャッと暗くなるまで押し続けます。機械にはあまりいいことではありませんが、閉じることはできます。

タスクマネージャーでアプリの終了…マウスが動かないこともあるので、キーボードから Ctrl+Alt+Delete の3つのボタンを同時に押します。



青い画面になって「タスクマネージャー」を選ぶことができます。タスクマネージャーが開いたら、インターネットを見ていたアプリ (Edge とか Chrome) を選んで右下の「アプリの終了」を押します。何でもない時に一度やっておくと、慌てなくてすみすよ。(広報G かぎまちはる)



『年がら年中饅頭祭—奈良と大和の和菓子巡り旅』太鼓打源五郎著  
奈良は饅頭発祥の地。大和の町や村に分け入って菓子の歴史を探り、かつ実食した著者の渾身の一冊。老舗から新興まで奈良県下60店舗に及ぶ紹介、和菓子の歴史、奈良の年中行事にまつわる和菓子、おすすめ奈良土産など。これ1冊で大和の和菓子がわかる和菓子百科!!  
和菓子を知ると、そこに込められた日本人の心を知ることになるのだ。



『元興寺とならまちの建築・美術—語られなかった謎に迫る』清水和彦著  
奈良市の旧市街「奈良町」の中心部、古い町並みが残る一帯は、今では「ならまち」とひらがなで書かれ、世界遺産の元興寺はそのシンボルです。奈良時代以降1300年もの間、火災にも遭わず文化遺産を今に伝えているのは奇跡です。しかし、幕末に町家の火災が飛火して奈良時代創建の五重塔(大塔)が焼失してしまいました。本書では、大塔の復原をめぐる戦前の忘れられた論争を手掛かりにして、これまで語られなかった元興寺をめぐる謎に迫りました。



奈良の魅力を奈良人が奈良から発信!! 京阪奈新書、あをによし文庫、奈良ガイド、自費出版 **京阪奈情報教育出版**

### 広報Gより。

梅のたよりも聞こえてきました。ソムリエの風も、2回目のWEB版です。ページ数は奇数で発行しますのでよろしくお願ひします。奈良まほろばソムリエの会のホームページも見やすくなったよ、内容も充実してきたよ、と評判です。ぜひご覧ください。また、広報Gでは会員の皆様の投稿をお待ちしています。フェイスブックやソムリエの風に掲載したいと思ひます。どうぞ、広報Gの窓口 [kouhouweb@stomo.jp](mailto:kouhouweb@stomo.jp) にお送りください。では、時節柄みなさまおからだご自愛ください。

(広報G) 磯兼・風間・柏尾・梶尾・窪田・小林(誠)・島田・中村・廣岡・二上・福岡・藤田・増田・松原・松森・吉川



### 特定非営利活動法人 奈良まほろばソムリエの会

事務所所在地：〒630-8217 奈良市橋本町3-1 きらっ都・奈良 (BONCHI)

ホームページ：<https://stomo.jp/>

メールアドレス：[info@stomo.jp](mailto:info@stomo.jp)

つれづれ日記(ブログ)：<http://nara-stomo.seesaa.net/>



HPのQRコード